

西洋美術史ゼミ

第4回 エルトリア美術とローマ美術

中世I (初期キリスト教美術)

発表者 あますん

発表者について

あまずん

Twitter : @quii_w (メイン)

@amazuunsc (サブ)

理系の大学生 (数学専攻) をやっています。

近代以降の美術史や思想史、現代美術について
興味があります。



前回の内容

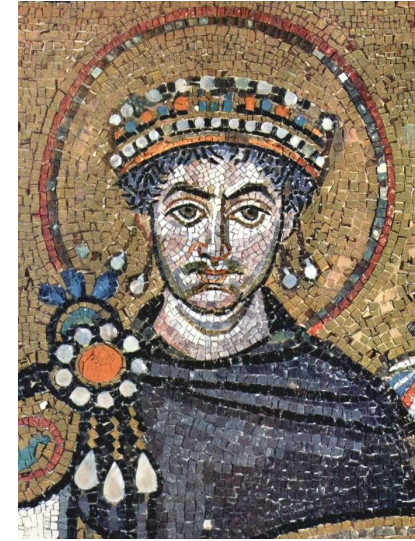
- クレタ美術とミュケナイ美術
ギリシア文明以前の美術について。
- ギリシア美術
幾何学様式からアルカイック美術やクラシック美術。
- ヘレニズム美術
美術の大衆化や古典主義復興。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-NC-ND](https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/) のライセンスを許諾されています

本日の内容

- エトルリア美術とローマ美術
- 初期キリスト教美術



この写真の作成者 不明な作成者は
[CC BY-SA-NC](#) のライセンスを許諾されています

以上の事柄について、時代背景→美術の順番で説明を行います。
予定していたビザンティン美術と初期中世美術は次回に回します。
今回も歴史の部分が長めです。気楽に聞いてください。

全体の概略

- 西洋における中世とは一般に、5世紀から15世紀、事件でいえば西ローマ帝国滅亡から東ローマ帝国滅亡までを指し、その後のルネサンス以降が近世として扱われます。
- 今回の発表では、ヨーロッパにおける古代として最後に扱われる都市国家ローマの誕生からその滅亡までを扱い、次回以降の中世文化への橋渡しをしようと思います。

本日の内容

- **当時の情勢について：古代ローマ**
- エトルリア美術とローマ美術
- 当時の情勢について：キリスト教の成立
- 初期キリスト美術

当時の情勢について：エトルリア

- 前八世紀にラテン人によって建てられたローマは、先住民の**エトルリア人**の支配を受け、彼らを通してギリシア文化の影響を受けていた。しかし、前6世紀末にエトルリア人の王を追放し、ローマは**共和制に移行**した。
- 彼らは宿命論を信じるなど、**宗教、来世観、社会制度はギリシアとは大きく異なった**。

当時の情勢について：古代ローマ（1）

- エトルリア人の追放後、BC509~287までローマでは**貴族共和制**が行われた。
- 貴族共和制では**貴族**が実権を握り、貴族から選ばれた2名の**執政官**が行政や軍事を担当した。また、貴族で構成された**元老院**が政治の実権を握った。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-ND](https://creativecommons.org/licenses/by-nd/4.0/) のライセンスを許諾されています

当時の情勢について：古代ローマ（2）

- 当時、中小農民を中心とする**平民**は、**重装歩兵**として戦闘で貢献していたが参政権はなかった。
- そのため、貴族中心の政治に対して、平民は**身分闘争**を行った。
- その結果、平民は貴族と**同じ政治上の権利を得て権力闘争は終わったが**、以後も貴族と平民上層部が**新貴族**を形成し政治を動かした。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA-NC](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

当時の情勢について：古代ローマ（3）

- ローマは周辺都市の征服を進め、BC272に**イタリア半島を統一**した。征服した都市の扱いに差をつける**分割統治**を行った。
- 半島を統一したローマは、**カルタゴ**と地中海の覇権をめぐり**ポエニ戦争**を行った。そしてカルタゴを滅ぼし、ローマは地中海西部の覇権を握った。



当時の情勢について：古代ローマ（4）

- ポエニ戦争後、長期の従軍などにより重装歩兵として活躍した中小農民が没落し、彼らが無産市民となったためローマの**軍事力が低下**した。
- この危機に対し**グラックス兄弟**が貴族の土地を貧民に分配しようとしたが、元老院の反対にあい失敗。
- 以後、有力な政治家は自分の保護下におく人々を配下として、彼らを使って互いに暴力で争うようになり、ローマは「**内乱の一世紀**」に突入した。

当時の情勢について：古代ローマ（5）

- 詳細は省くが、カエサルの養子**オクタウィアヌス**が地中海を平定し、BC27に元老院から**尊厳者（アウグストゥス）**の称号を与えられた。この地位は世襲されたので、**帝政時代**が始まった。
- オクタウィアヌスは**元老院を尊重**する**元首制**を行った（が、これは名目上のものであり実権は皇帝にあった）。
- アウグストゥス帝から約200年間(BC27~180)はローマ帝国の**最盛期**だったが、財政の行き詰まりや経済の不振によって帝国は動揺し、異民族の侵略などもあり、395年に帝国は**東ローマ（ビザンツ）帝国**と**西ローマ帝国**に分裂した。東ローマ帝国は長く続いたが、西ローマ帝国は476年に滅んだ。

本日の内容

- 当時の情勢について：古代ローマ
- **エトルリア美術とローマ美術**
- 当時の情勢について：キリスト教の成立
- 初期キリスト美術

エトルリア美術

- 先住民の**エトルリア人**は、ギリシア美術の影響を受けながら、エトルリア固有の美術を発展させた。
- **ダイナミックで表現的**であることが特徴で、人体比率を無視し誇張された人体像などが作られた。
- **ウルカ (Vulca)** が後世に名前の残る唯一のエトルリア人美術家である。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

ローマ美術（1）

- ローマ美術はエトルリアの支配後もなおその影響下にあった。
- しかしポエニ戦争の過程でギリシア美術が輸入され、ローマ人はその蒐集に努めた。
- その結果、外来のギリシア美術とエトルリアからの伝統のローマ固有の美術の**二大潮流**が形成された。

ローマ美術（2）

- 第二次ポエニ戦争以降（BC218~201）、**「ギリシア風に生きる」**ことが社会の大勢となった。そうして貴族や富裕者はクラシック様式やヘレニズム様式の彫刻や住宅を求めるようになり、建築家や彫刻家はそれに応じた。
- 特に、そのような彫刻家や彫刻は**ネオ・アッティカ派（Neo-Attic）**と呼ばれる。多民族国家のローマにおいて、彼らの洗練された古典主義美術は心地よく理解されやすいものであった。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

ローマ美術（3）

- 第二次ポエニ戦争後、建築においては徐々にローマ的なるものが培われていった。
- 紀元前2世紀と1世紀前半はヘレニズム文化が等質化した時代であったが、イタリア半島もこの文化現象の中に組み込まれており、ヘレニズム建築の経験を土台に**ローマ固有の建築**が生まれる。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-NC-ND](https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/) のライセンスを許諾されています

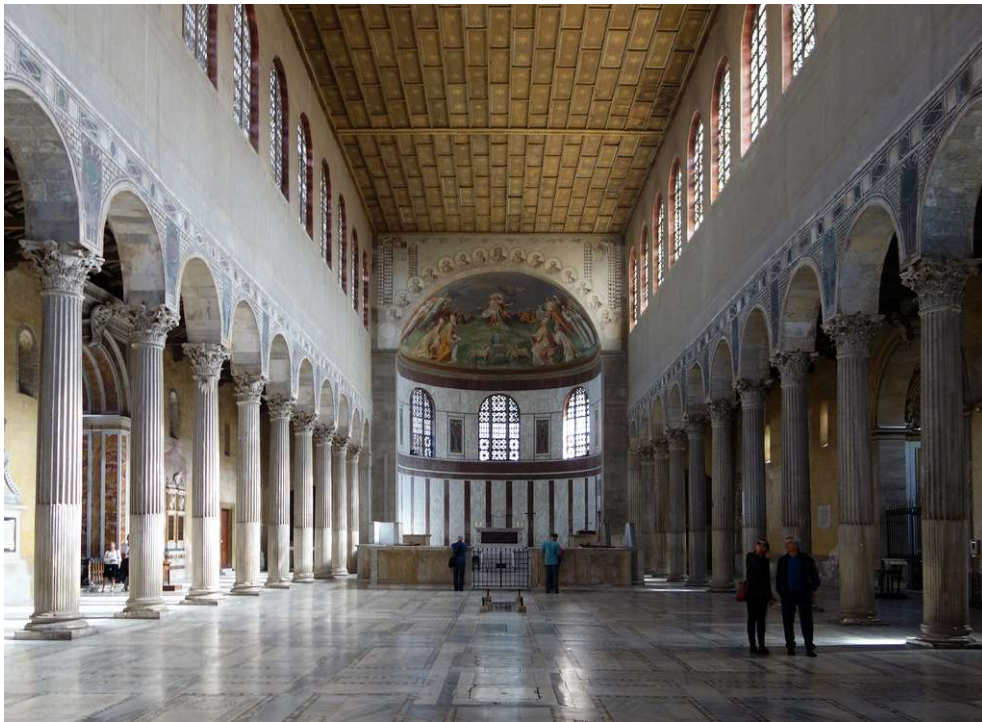
ローマ美術（4）

- ローマ建築の特徴とは、**厳格な左右対称性**、**神殿の高い基壇**、**コリント式柱頭の多用**、**内部空間の重視**である。
- また、紀元前2世紀前半には**バシリカ**（**多目的公会堂**）が、紀元前1世紀前半には**円形闘技場**が新しい建築ジャンルとして生まれた。



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

ローマ美術（5）



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA-NC](#) のライセンスを許諾されています

<バシリカ>



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

<円形闘技場（コロッセウム）>

ローマ美術（6）

- 建築装飾についても、ヘレニズム期にあった大理石の壁を、**化粧漆喰を壁に貼り付ける**ことで模した**ポンペイ第一様式**から、建築モチーフを壁面いっばいに描いた**ポンペイ第二様式**へと移行する。
- この様式では対象に**陰影をつけること**や**遠近法**を用いて、だまし絵的に部屋を拡張することを狙っていた。これは窓のないローマの家の閉塞感を打ち破るものだった。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています



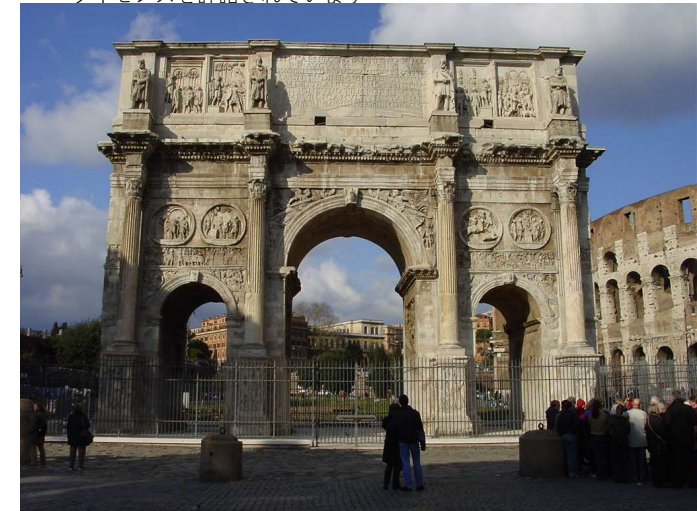
この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA-NC](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

ローマ美術（7）

- 帝政期に入ると、皇帝の事蹟を誇示するための「**歴史浮彫**」が盛んに作られた。
- これはローマの記録主義に由来するものであり、「**トラヤヌスの記念柱**」や代表的作品である。
- また、同様の理由で「**コンスタンティヌスの凱旋門**」などの**凱旋門**も作られた。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA-NC](#) のライセンスを許諾されています

本日の内容

- 当時の情勢について：古代ローマ
- エトルリア美術とローマ美術
- **当時の情勢について：キリスト教の成立**
- 初期キリスト美術

当時の情勢について：キリスト教の成立(1)

- ローマ属州の**パレスチナ**では**ユダヤ教**が信仰されていたが、BC4年ごろ**イエス**がその律法主義を批判した。
- キリスト教は皇帝の権威を認めなかったため数多くの迫害を受け、多くの殉教者を出した。しかし貧民に教徒が増え続けたため、**コンスタンティヌス帝**は帝国支配の安定化のために313年の**ミラノ勅令**で**キリスト教を公認**した。
- また、325年の**ニケーア公会議**で**三位一体説**を主張する**アタナシウス派**が正統となった。

当時の情勢について：キリスト教の成立(2)

- キリスト教の教会には**ローマ＝カトリック教会**（**西方教会**）と**東方教会**があった。
- ローマ帝国の分裂後、ローマ＝カトリック教会は後述する**フランク王国**と、東方教会は**ビザンツ帝国**（**東ローマ帝国**）と結びついた。
- 教義などの理由で、両者の対立は次第に深まっていった。



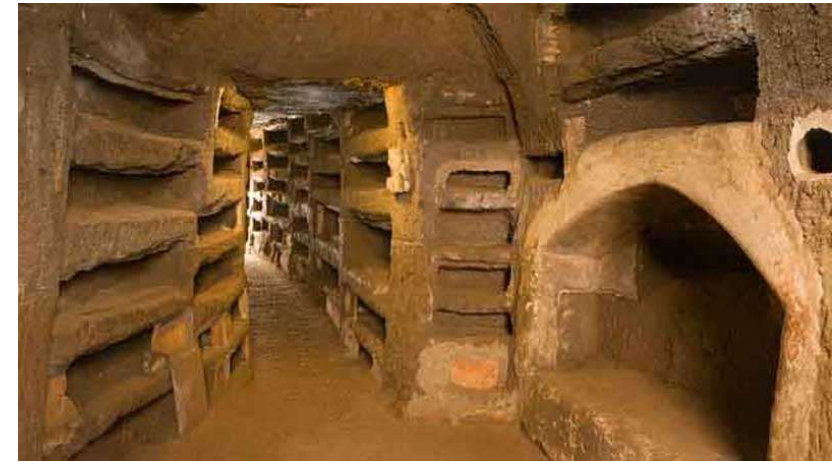
この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-ND](https://creativecommons.org/licenses/by-nd/4.0/) のライセンスを許諾されています

本日の内容

- 当時の情勢について：古代ローマ
- エトルリア美術とローマ美術
- 当時の情勢について：キリスト教の成立
- **初期キリスト美術**

初期キリスト美術（1）

- 一般に「初期キリスト美術」とは、**キリスト教の誕生から5世紀後半**（西ローマ滅亡、フランク王国建国あたり）にかけて生み出された東西キリスト教美術を指す。
- 二世紀のキリスト教美術において注目すべきは**カタコンベの壁画や副葬品**であり、それらは**葬礼美術**と総称される。



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY-NC-ND](#) のライセンスを許諾されています

初期キリスト美術（2）

- カタコンベはキリスト教徒が死者を埋葬するため地中に網の目のように掘り巡らした**地下墓所**であり、**2世紀末から4世紀後半**にかけて各地で作られた。
- キリスト教徒は死後の魂の救済を願い、カタコンベの天井や壁の漆喰の上に絵を描いたが、異教徒の目をごまかすために**同時代の異教美術から構図やモチーフを借用**している。
- 題材は信仰を間接的、暗示的に示すものであった。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

初期キリスト美術（3）

- **石棺彫刻**にも壁画と同じ題材が使われている。
- 死者の肖像を中心として棺の側面や前面に**浮彫**を施す方法は、異教石棺の伝統を汲むものであった。



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA-NC](#) のライセンスを許諾されています

初期キリスト美術（4）

- 4世紀以後の、コンスタンティヌス帝がミラノ勅令を出し、キリスト教が公認された後の時代を「**教会の勝利**」の時代と呼ぶ。
- この時代には各地で大規模な**教会堂**の建築が開始されたが、この建築は**バシリカ式**と**集中式**に分けることができる。



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY-NC](#) のライセンスを許諾されています

初期キリスト教美術（5）

- バシリカは帝政ローマの建築における、多目的公会堂であった。
- バシリカ式建築はこれから影響を受けたもので、**教会堂の建築様式**である。
- 主に**一般信徒の礼拝用**の大型教会堂に使われた。



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA-NC](#) のライセンスを許諾されています

初期キリスト教美術（6）

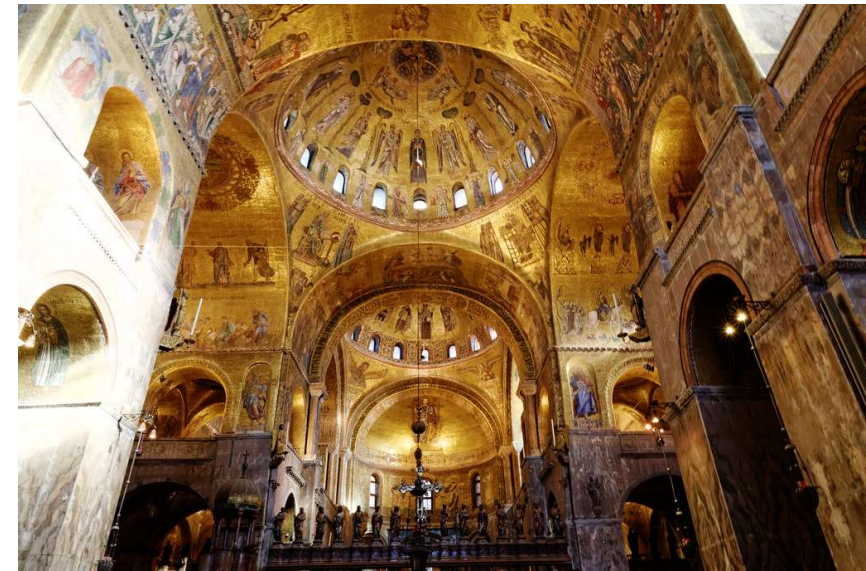
- 一方、**集中式**はヘレニズムの墓廟建築などの伝統を汲むもので、**洗礼堂**、**廟堂**、殉職者記念堂など特殊な用途を持つ小型の建築に使われた。
- その特徴は**中心の周りに空間が対称かつ均等に配置される**建築であり、**正多角形**や**ドーム**が採用された。



この写真の作成者 不明な作成者 は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

初期キリスト教美術（7）

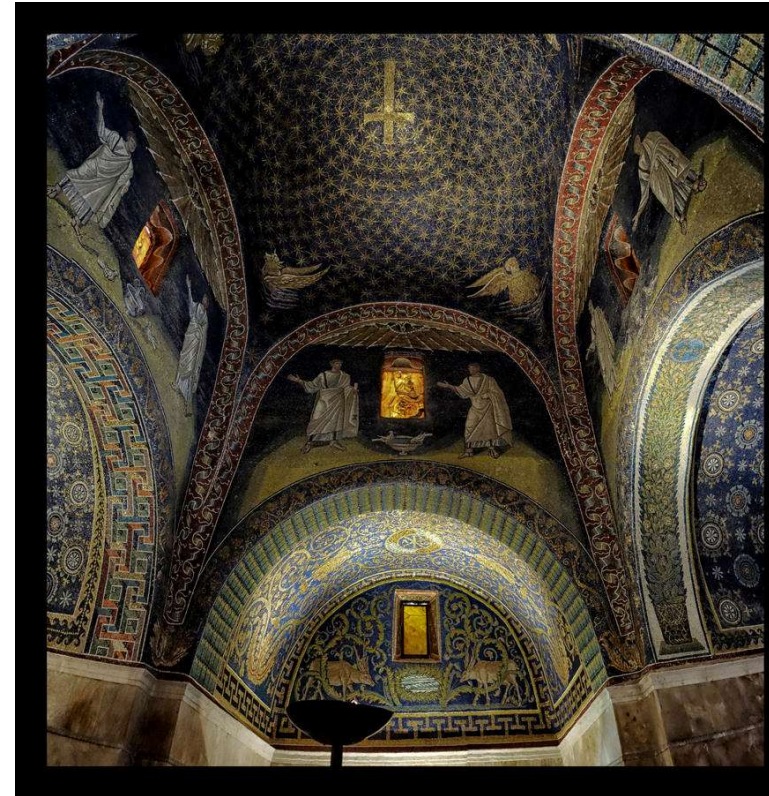
- バシリカ式、集中式のいずれもレンガで作られた**外観は質素**であったが、内部は高価な大理石や色ガラス、金を贅沢に使ったモザイクで**豪華に飾り立てられた**。
- この極端な対照には現実世界と神の霊的な世界の対象を印象付けようとする意図があったと考えられる。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY](#) のライセンスを許諾されています

初期キリスト教美術（8）

- 五世紀に入ってからにはさらに教会堂の造営に弾みがついた。
- この時代は初期の**象徴的・寓意的な表現**も残りつつ、**空間に合わせて図像を体系的に構築しようとするもの**だった（≒**デザイン・構成的な試みが行われた**）。
- この時代になり、キリスト教美術は古代ローマの古典的な様式を離れ、**東方的な華麗な金地や多様な装飾モチーフ**を採用した**壮麗美術**が生まれ出されるようになった。



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY-NC-ND](#) のライセンスを許諾されています

次回の内容

- ローマ帝国の分裂後、中世のヨーロッパでは何が起こり、美術はどのような影響を受けたのでしょうか。また、キリスト教はどのように発展していったのでしょうか。今回に引き続き、次回は中世の美術について考えていきます。
- 関連するワード：
- ゲルマン人の大移動
- 聖像論争（イコノクラスム）



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています